平成27年度

事業評価シート

事務事業名	民俗資料館施設整備事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	歴史文化財班
		電話番号(内線)	0187-84-4040(3403)

事業の目的	空き校舎を活用して、歴史民俗資料館施設として整備する。			
事業の内容	歴史民俗資料館の整備			
事業の対象	旧千畑南小学校校舎			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	165,893 千円	35,644 千円	38,605 千円

事業の効果等	施設整備が進み、歴史民俗資料館を開館することが出来た。
実績・成果等(数値)	歴史民俗資料館整備(第二期)工事 実施設計・設計管理業務 1,026,000円 歴史民俗資料館整備(第二期)工事(外壁塗装他) 24,840,000円 防犯カメラ設置工事1,512,000円 備品購入 6,380,424円

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	施設管理及び展示環境充実のため第2期工事を行い、併せて展示什器等の充実を図った。 次年度は外構工事を行うことにより、駐車場整備、段差解消が可能となり、利用環境の向上及び冬期間の除雪作業の効率化が図られ管理経費の削減が推進される。		
事業の方向性	□ さらに重点化する ■ 見直しのうえ継続する □ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	小中学生には一度は見学してほしい。また、授業の中でふるさと学習を学ぶ場として活用してほしい。

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	歴史文化事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	歴史文化財班
		電話番号（内線）	0187-84-4040（3402）

事業の目的	平泉の世界文化遺産登録を契機として、地域の歴史研究の進展を図るため、後三年合戦に関連する歴史の啓発を行う。			
事業の内容	歴史講演会や視察研修の開催など郷土史を学習する場の提供			
事業の対象	横手市美郷町後三年合戦活用協議会、後三年合戦みさとプロジェクト実行委員会			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	127 千円	222 千円	590 千円

事業の効果等	郷土の歴史を理解することにより、歴史の正しい理解と郷土愛の醸成が図られる。
実績・成果等（数値）	歴史講演会「後三年合戦への道」講師：島田祐悦氏（横手市教育委員会） 参加者50名 後三年合戦史跡めぐりガイドマップの作成

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	歴史講演会や視察研修等の学習の場を提供し続けることで、参加者の郷土史に対する理解が深まってきている。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	「後三年合戦史跡めぐりガイドマップ」は学友館以外にも温泉施設や道の駅に配置してほしい。

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	後三年合戦関連遺跡発掘事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	歴史文化財班
		電話番号(内線)	0187-84-4040(3402)

事業の目的	世界遺産「平泉」の形成に影響を与えた清原氏に関連すると思われる遺跡の調査を進めることによって、郷土の古代中世史の一部を解明し、遺跡の保存に努める。			
事業の内容	古代中世遺跡の分布調査 開発行為に伴う遺跡の調査			
事業の対象	川端山館跡、鎧ケ崎城跡、その他町内遺跡			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	5,209 千円	2,901 千円	2,502 千円

事業の効果等	郷土史の解明されていない部分の研究の進展が期待できる。 発掘調査や遺物の整理を行い、歴史教育に活用し、学習する機会を設けることで町の歴史に対する関心と理解を深めることができる。
実績・成果等(数値)	川端山館跡・鎧ヶ崎城跡の遺跡調査 後三年合戦公開講座(主催:横手市教育委員会　共催:美郷町教育委員会)280人

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	調査が行われ、検証されることで郷土史のこれまで解明されていなかった部分の研究が少しずつ進展している。また、調査成果についての発表の場を設けたことで、町の歴史への関心と理解が深まってきている。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	小中学生が後三年合戦について、学習する機会があれば町の歴史への興味と関心が深まる。

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	宿泊交流館利用促進事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	観光・交流の充実	担当班名	スポーツ振興班
		電話番号（内線）	0187-84-4916(4302)

事業の目的	交流人口の拡大を図るため、空き校舎を活用して宿泊交流館施設を整備する。			
事業の内容	・外構Ⅱ期工事　一式 ・物置等改修工事　一式 ・体育館遠赤外線暖房機配管系統改修工事及び保守点検業務委託　一式 ・体育館外壁等改修工事　一式 ・研修棟屋上防水改修工事　一式			
事業の対象	宿泊交流館ワクアス工事			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金　額	－　千円	69,722　千円	－　千円

事業の効果等	宿泊交流館ワクアスが整備されたことにより、スポーツ団体等による宿泊者が増え交流人口拡大に向けた取り組みが展開できた。
実績・成果等（数値）	・外構Ⅱ期工事　31,097千円 ・物置改修工事　5,073千円 ・体育遠赤外線暖房機改修工事及び保守点検委託　259千円 ・体育館外壁等改修工事　21,390千円 ・研修棟屋上防水改修工事　7,732千円

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	平成27年度で宿泊交流館ワクアスの外構及び改修工事等が完成した。これにより宿泊及び利用者の駐車場なども完成し利便性が図られた。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　（事業完了）		

外部評価	A	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	集客プログラム宣伝活動事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	観光・交流の充実	担当班名	スポーツ振興班
		電話番号（内線）	0187-84-4916(4302)

事業の目的	宿泊交流館ワクアスの利用促進を図るため、各種大会の開催をはじめ合宿誘致を推進することにより、交流人口の拡大を図る。			
事業の内容	・ワクアス杯スポーツ大会の開催（ミニバスケットボール、フットサル） ・関東圏内の大学等への合宿誘致 ・スポーツ講習会の開催 ・合宿応援事業としてワクアス利用者へ最大1人あたり1,000円の食事代を補助する。			
事業の対象	・スポ少を対象にワクアス杯のミニバスケットボール大会及びフットサル大会を開催しワクアスに宿泊していただく。 ・関東圏内の大学等へ出向き、ワクアスを利用した合宿応援事業のPRを行い誘致活動をする。 ・スポ少及び指導者、保護者を対象にしたジュニアアスリートスポーツセミナーを開催。			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	― 千円	1,244 千円	1,132 千円

事業の効果等	・ワクアス杯と名付けたスポーツ大会を開催することにより、ワクアスのPRができると同時にワクアスへ宿泊してもらい、スポーツ以外での交流も楽しんでもらうことができる。 ・合宿誘致及び合宿応援事業を宣伝することによりスポーツ団体等の施設使用促進が図られる。 ・スポーツ講習会を開催することにより、競技レベルの向上やスポーツ人口の底辺拡大が図られる。
実績・成果等（数値）	・ワクアス杯ミニバスケットボール大会（開催日10/3～10/4　参加チーム　男女24チーム　うち県外4チーム） ・ワクアス杯フットサル大会　（開催日　2/27～2/28参加チーム40チーム　うち県外8チーム） ・各大学等へ出向き合宿誘致活動　（山梨学院大学、獨協大学等　全10回訪問活動） ・合宿応援事業補助金利用団体　（東北大学相撲部　他11団体　合計　213千円） ・スポーツアスリートセミナー　（開催日　2/14　1.メンタルトレーニング〔こども及び指導者向け〕　参加者101名　2.栄養指導〔保護者及び指導者向け〕　参加者28名）

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	宿泊交流館ワクアスが4月1日にオープンし、合宿誘致活動やワクアス杯の大会を開催するなどワクアスのPR 活動をおこない、結果H27年度の宿泊者が2,016人（延べ人数）となった。今後も利用者の増加を図るためPR活動に力を入れる必要がある。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	職員がより一層意識を高め、自らが出向いて熱意あるPR活動をするなど、ワクアス等の利用アップに向けた取り組みに期待したい。

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	みさとびと育成プログラム事業 （中学生イングリッシュキャンプ）	担当課名	教育総務課
総合計画の施策名	子どもの教育の充実	担当班名	教育総務班
		電話番号（内線）	0187-84-4914(2405)

事業の目的	中学生から英語能力向上を図ることで、国際化社会の中でグローバルな視野を持って個人の働き方を選択したり、まちづくりに参加・貢献していくことにつなげる。			
事業の内容	国際的に共通する言語である英語をより実践的に活用できるよう習得させるとともに、他国の文化等に対する興味関心を高める一助として、中学生の英語宿泊研修を実施する。			
事業の対象	美郷中学校　2年生			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金　額	－　千円	3,360　千円	3,400　千円

事業の効果等	本研修の受講を一つの契機に、グローバルな視野を持って当町の将来を切り開いていこうとする人材の育成につながる。
実績・成果等（数値）	レッスンは講義一点張りではなく、お菓子づくり、クリケット、クラフト、ゲームなどを織り交ぜており、楽しみながら異文化や英語によるコミュニケーションを学べるよう構成されていた。

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	初の試みではあったが、実施後の中学生のアンケートや引率教諭の評価も非常に高く、次年度以降も継続して実施したい。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	みさとびと育成プログラム事業 (美郷カレッジ)	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	社会教育班
		電話番号(内線)	0187-84-4915(4103)

事業の目的	美郷町民及び美郷町のファンが、創造的で充実した人生を送り、地域づくりや地域文化の創造に主体的に参加していただくための学習機会を提供することで、町民憲章に定める「自然を愛し、心豊かに健やかに、未来にひらく美しいまちをともにつくる」ことを目的とする。			
事業の内容	美郷カレッジの開催(前期3講座、後期4講座　計7講座)			
事業の対象	町内・町外者			
事　業　費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金　　額	－　　千円	1,119　　千円	1,796　　千円

事業の効果等	美郷カレッジを開催したことにより、地域づくりや地域文化を考えるきっかけとなった。また、講話形式の普通講座のほかに、講師と意見交換や交流する時間に重点を置いた特別講座「夜なべトーク」を設け、より深く学びたい受講者の学習ニーズに応えた。
実績・成果等(数値)	美郷カレッジ参加者:435名(うち、夜なべトーク参加者88名)

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できていない

内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
判定説明及び考察	芸術文化、政治・経済の分野で活躍されている方々を講師に迎え「文化をつくる・未来をつくる」をテーマに7講座を開催し、バラエティに富んだ講座を提供することができた。今後も、心の豊かさや地域づくりに繋がるような講座を提供していく。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する	

外部評価	B	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	青少年健全育成対策事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	福祉の向上	担当班名	社会教育班
		電話番号（内線）	0187-84-4915(4103)

事業の目的	青少年育成団体の活動の充実を図る。			
事業の内容	青少年育成美郷町民会議への補助、美郷町PTA連合会への補助			
事業の対象	青少年育成団体			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	515 千円	365 千円	415 千円

事業の効果等	活動費を助成したことにより青少年育成団体の活動が維持され、本町の青少年の健全育成に寄与した。
実績・成果等（数値）	青少年育成美郷町民会議補助金　320千円 美郷町PTA連合会への補助金　45千円

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	町民会議、PTA連合会とも、団体活動の維持が図られている。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	看護師配置事業	担当課名	教育総務課
総合計画の施策名	福祉の向上	担当班名	幼児総務班
		電話番号（内線）	0187-84-4914(2404)

事業の目的	看護師の配置により、園児の健康管理や施設の衛生管理など、きめ細やかな保育サービスを実施し、子育て環境の向上を図る。			
事業の内容	各認定こども園へ看護師を配置する。			
事業の対象	園児			
事　業　費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金　　額	5,556　千円	5,549　千円	5,943　千円

事業の効果等	園児の体調不良や怪我などへの適切で迅速な治療や処置など、保護者への安心感を高めている。また、感染症の予防や対応に専門職として大きく貢献している。
実績・成果等（数値）	平成26年度手当した園児数　437人 平成27年度手当した園児数　466人

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	子育て環境が向上し、園児の健康が確保されるとともに、保護者の安心感を高めている。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	一時保育事業	担当課名	教育総務課
総合計画の施策名	福祉の向上	担当班名	幼児総務班
		電話番号（内線）	0187-84-4914(2404)

事業の目的	保護者の就労形態の多様化、疾病等による緊急保育等の一時的な保育需要に対応し、乳幼児の福祉の増進を図る。			
事業の内容	主に、未就園の乳幼児を一時的に保育園で預かり保育する。			
事業の対象	一時的に保育が必要な乳幼児			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	5,046 千円	5,184 千円	5,943 千円

事業の効果等	保護者に代わる緊急的な子育てを全面的に支援できる。
実績・成果等（数値）	平成26年度延べ利用者数　1，021人 平成27年度延べ利用者数　　470人

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	全ての子育て家庭が心にゆとりを持って子育てができるように、多様なニーズに対応したサービスを提供している。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	放課後児童健全育成事業	担当課名	教育総務課
総合計画の施策名	子どもの教育の充実	担当班名	幼児総務班
		電話番号（内線）	0187-84-4914(2404)

事業の目的	放課後、就労等の理由により保護者が不在となる家庭の小学校1年生から6年生までの児童に対し、適切な遊びの場を与え、児童の健全な育成を図る。			
事業の内容	保護者が帰宅するまでの間、児童の保護及び遊びを主とした健全育成活動を行うとともに、その環境を整える。			
事業の対象	小学校児童			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	16,745 千円	17,787 千円	38,686 千円

事業の効果等	希望する全ての児童を引き受けることができ、保護者の就労と子育てを全面的に支援している。
実績・成果等（数値）	平成26年度登録数　124人 平成27年度登録数　188人

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	昨年度より利用児童数が増加し放課後に保護者のいない児童の居場所の確保など健全育成の充実を推進。また、保護者が仕事と子育ての両立が図られるよう取り組みが行われていると評価できる。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	利用児童数拡大に伴う職員の配置を充実させ、目が行き届く環境をお願いしたい。

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	子育て支援事業	担当課名	教育総務課
総合計画の施策名	福祉の向上	担当班名	幼児総務班
		電話番号(内線)	0187-84-4914(2404)

事業の目的	保護者の子育てに関する不安と悩みの解消や、子育て家庭にふれあいの場を提供し交流を図るなど、特に未就園児を持つ家庭に対する育児支援を行う。			
事業の内容	・子育て中の親子や祖父母に集いの場を提供し交流を図る。 ・母親サークルに集いの場を提供する。 ・育児に関する不安や悩みについて相談に応じる。			
事業の対象	未就園児を持つ家庭			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	6,068 千円	6,705 千円	6,160 千円

事業の効果等	未就園児を持つ家庭に対してを多様な取り組み(園開放・育児相談・交流等)で支援している。また、各種イベント(誕生会・遠足・クリスマス会等)の開催で親子の触れ合いの場を創出している。
実績・成果等(数値)	平成26年度　総参加乳幼児数　1，445人 平成27年度　総参加乳幼児数　1，299人

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	少子化に伴い、地域内の幼児同士のふれあいや交流機会が減少している状況において、定期的に遊びの場を提供したり、育児相談、園開放など子育て支援拠点として情報発信を行うなど重要な役割を担っていると評価できる。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	スクールバス運行事業	担当課名	教育総務課
総合計画の施策名	子どもの教育の充実	担当班名	教育総務班
		電話番号(内線)	0187-84-4914(2405)

事業の目的	児童生徒の遠距離通学対策と校外活動事業の円滑な運営を図ること。			
事業の内容	小・中学校の児童生徒を対象に登下校のバスを運行する。また、各小・中学校の校外活動に対し、バスを運行する。			
事業の対象	遠距離通学:各小・中学校の遠距離通学対象となる児童生徒 校外学習:　全児童生徒			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金　　額	93,767　千円	64,346　千円	75,902　千円

事業の効果等	児童生徒の遠距離通学に効果があったほか、学校の校外活動も円滑に行われた。
実績・成果等(数値)	スクールバス15台の運行管理を実施した。

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	登下校について、安全安心な通学を維持している。 今後も、より良い運行計画の策定を進める。 校外活動にスクールバスを利用する場合は、その利用基準に則り有効な活用を図る。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	運転手だけでは車内の様子までは把握できないので、運転手、児童生徒にアンケートを実施し、安全安心な運行に努める。体力アップの観点からバス停までは歩くべき。バス停の選定についても検討。

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	就学援助事業	担当課名	教育総務課
総合計画の施策名	子どもの教育の充実	担当班名	教育総務班
		電話番号（内線）	0187-84-4914(2407)

事業の目的	経済的な理由で就学困難な児童生徒の保護者に対し、教育に必要な経費を援助することで保護者の経済的負担を軽減し、義務教育の円滑な実施に資する。			
事業の内容	生活に困窮していると認めた児童生徒に対し、学用品費や通学用品費、学校給食費、医療費等の給付金を支給する。			
事業の対象	生活保護法(昭和25年法律第144号)第6条第2項に規定する要保護者とそれに準ずる程度に困窮していると認めた者			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	11,962 千円	10,387 千円	12,734 千円

事業の効果等	広報、まちづくりガイド、ホームページ掲載はもとより、関係課（福祉保健課等）・各学校と連携し、制度の周知を広く行ったことにより、就学に必要な経費を補助することができた。保護者等の経済的負担を軽減し、教育機会均等の保持が図られた。
実績・成果等（数値）	H27年度就学援助児童生徒数　小学生65名　中学生53名　計118名 （H26年度　小学生82名　中学生63名　計145名）

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	関係課・各学校と連携しながら制度の周知を行い、就学援助認定者の経済的負担を軽減している。経済・雇用情勢の変化等に応じ、適宜適切に制度の見直しを図りつつ、制度を周知していきたい。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	奨学資金事業	担当課名	教育総務課
総合計画の施策名	子どもの教育の充実	担当班名	教育総務班
		電話番号(内線)	0187-84-4914(2407)

事業の目的	奨学資金は、教育機会均等を保証するため、経済的理由により大学、高校の修学困難な者に対し、学資を貸与し、有用な人物の育成を目的とする。			
事業の内容	上級学校に在籍し、経済的理由で就学困難な者に対して資金を貸与する。 ・高校　月額15,000円　　・短大、専門、大学　　月額40,000円			
事業の対象	奨学生を志望する者で、次の条件を具備する者。 (1)身体強健、品行方正で学業優良な者　(2)美郷町住民の子弟　(3)学資金に困難な者			
事　業　費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金　　額	16,416　千円	13,298　千円	18,625　千円

事業の効果等	募集については、町広報(3月号、4月号の2回)とホームページに掲載し周知した。新規応募者は大学・短大・専門学校枠が10名で、選考の結果全てに貸与が決定した。償還については、訪問、保証人への声かけをして回収率の向上に努めている。
実績・成果等(数値)	歳出(貸付):H27年度　奨学生貸与者数29名(内新規貸与者10名) 歳入(返済):平成27年度未納額　1,800千円　(収納率93.2%　滞納者20名(うち新規滞納者3名))

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	貸与については、予算の範囲内で応募者すべてに対応できている。償還については、歳入確保に向けて未納者への催告の回数を増やす等対策を行っているが、長引く経済不況等により新たな未納者があった。低所得者への制度ではあるが、回収率の向上に努めたい。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	保護者及び中高生に説明会を実施し、制度の周知を図ることを検討。

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	学校生活支援員配置事業	担当課名	教育推進課
総合計画の施策名	子どもの教育の充実	担当班名	教育指導班
		電話番号(内線)	0187-84-1112(2303)

事業の目的	発達障害や語学力不足など、教育上特別な支援を要する児童生徒を指導する教員を補助するために職員を配置し、当該児童生徒の教育課程を支援する。			
事業の内容	学校生活に支援を要する児童生徒を支援する支援員を配置する。			
事業の対象	町内小・中学校児童生徒			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	24,022 千円	24,377 千円	25,993 千円

事業の効果等	教育上の特別な支援を要する児童生徒の学校生活上の介助、学習支援、安全確保が行われ、児童生徒一人ひとりに合わせた教育が実践された。
実績・成果等(数値)	学校生活支援員の配置・・・18人(小学校14人、中学校4人)

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	学校事情の変化により年度途中で1名追加し、特別に支援を要する児童生徒への適切な指導や支援を行って、教職員の負担軽減と円滑な学校運営に寄与することができた。年2回の職員研修等を行い、特別支援教育への理解を深め支援員の指導力向上を図ってきたが、今後も、さらに指導力を高める取組を行い事業を継続していきたい。		
事業の方向性	■ さらに重点化する	□ 見直しのうえ継続する	□ 事業の縮小を検討する
	□ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	学力向上対策事業	担当課名	教育推進課
総合計画の施策名	子どもの教育の充実	担当班名	教育指導班
		電話番号(内線)	0187-84-1112(2303)

事業の目的	児童生徒の課題に対応した取り組みを推進し、学力の向上を図る。			
事業の内容	・基礎学力の定着度調査、計画的な学習を実施するための検査の実施 ・学習状況調査の分析・活用と校内研修改善、授業力向上支援事業の実施 ・学び方指導の手引と家庭学習の手引きの作成支援			
事業の対象	・学力検査(国語・算数)・・・全小学校第1、2、3学年 ・知的発達検査・・・全小学校第2、5学年　中学校第1学年 ・授業改善・研修活動改善研修会			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金　額	523　千円	728　千円	801　千円

事業の効果等	各小学校において第1、2、3学年に学力検査を実施し、児童の学習状況に応じた指導を行うことができた。 また、各校において小学校第2、5学年及び中学校第1学年に知的発達検査を実施し、学習を計画的に進めるための客観的資料として活用した。授業改善・研修活動改善研修会実施により、授業改善や、自校の研修及び校種や教科の枠を超えた共同的な研究体制の在り方について考察し、授業力向上につなげることができた。
実績・成果等(数値)	学力検査、知能検査・・・計画どおり実施した。 授業改善、研修活動改善研修会・・・小学校各1回、中学校2回実施した。 学び方指導手引き、家庭学習の手引き・・・計画どおり作成した。

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	町民の学校教育及び児童生徒の学力向上への期待は非常に大きい。本事業の実施により、各校において児童の学習到達度及び課題を分析し、個に応じた指導に取り組み基礎学力の定着に力を入れてきた。今後も、児童生徒個々の可能性を最大限に伸ばしていくために、この事業を実施していきたい。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	官学連携事業	担当課名	教育推進課
総合計画の施策名	子どもの教育の充実	担当班名	教育指導班
		電話番号（内線）	0187-84-1112(2303)

事業の目的	秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学と町内の園・学校が相互交流を行うことにより、児童生徒の上級学校へのあこがれをもたせ、異文化体験による国際理解を図る。			
事業の内容	秋田大学生による水に関するコンサートの実施、国際教養大学の留学生を園・学校行事に招いたり、大学を訪問したりして交流する。			
事業の対象	町内園児、小・中学校児童生徒			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	4,466 千円	70 千円	218 千円

事業の効果等	上級学校へのあこがれや学習意欲・コミュニケーション能力の向上がみられ、国際理解も推進できた。
実績・成果等（数値）	秋田大学・・・学生（11名）による美郷フェスタでのコンサート 国際教養大学・・・3園、2小学校で留学生との交流（参加留学生延べ17名）

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	秋田大学生による水に関するコンサートは、美郷フェスタ時に開催したことにより、町民の関心も高く、鑑賞した児童生徒の音楽への関心や上級学校への意識が高まったようだ。国際教養大学留学生との交流は、色々な国の人と触れ合ったことにより、交流した子どもたちによい刺激となった。また、大学を訪問した小学校では、児童が事前の学習にも意欲的に取り組み、充実した交流となった。		
事業の方向性	■ さらに重点化する	□ 見直しのうえ継続する	□ 事業の縮小を検討する
	□ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	ALT招致事業	担当課名	教育推進課
総合計画の施策名	子どもの教育の充実	担当班名	教育指導班
		電話番号（内線）	0187-84-1112(2303)

事業の目的	外国青年を招致し、児童生徒への外国語教育の充実と国際交流の進展を図る。			
事業の内容	ALT2名を、町内小・中学校4校に派遣する。			
事業の対象	町内小・中学校児童生徒			
事　業　費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金　　額	10,174　千円	10,174　千円	10,228　千円

事業の効果等	児童生徒が、外国青年との授業や様々な活動で生の英語にふれることによって、コミュニケーション能力と英語力の向上に繋がると同時に、外国の異文化への理解と興味も深まった。
実績・成果等（数値）	1名が交替したが支障なく指導計画どおりの配置ができた。

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	ネイティブの英語指導助手と授業や様々な活動でふれ合うことにより、児童生徒の異文化理解が深まるとともに、コミュニケーション能力の向上に寄与している。小学校の外国語活動においても、楽しさや興味・関心がさらに高まるように、なお一層ALTを活用していきたい。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	子どもの感性・創造力育成事業	担当課名	教育推進課
総合計画の施策名	子どもの教育の充実	担当班名	教育指導班
		電話番号（内線）	0187-84-1112(2304)

事業の目的	各分野において第一線で活躍している人達の一流の芸術を鑑賞したり、様々な体験活動を通して、子どもの感性、創造力の育成を目的とする。			
事業の内容	・町内3小学校児童を対象とした芸術鑑賞や、中学生を対象にした講演会の開催 ・自由研究コンテストや宿泊体験の開催 ・小学校陸上記録会や学校交流音楽祭の開催			
事業の対象	・芸術鑑賞　ドリーム体験！ほんもの講座－3小学校1～6年生 ・進路講演会－中学校2年生　・小学校陸上交流会－3小学校5～6年生 ・宿泊体験－3小学校4年生　・自由研究コンテストーすべての小・中学校 ・学校交流音楽祭－すべての小・中学校の金管バンド部・吹奏楽部			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金　額	1,889　千円	2,696　千円	3,486　千円

事業の効果等	第一線で活躍している本物のパフォーマンスに触れたり、興味や関心をもったものに熱中して取り組んだり、研究を深めたりすることにより、子どもたちの感性が豊かになり、視野が広がった。また、学校間や児童生徒の交流も深められた。
実績・成果等（数値）	・すべての事業を実施 ・ドリーム体験！ほんもの講座のアンケート結果は大変よかった、よかったが98.6% ・自由研究コンテスト出品数　67作品

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	発達段階や子どもたちの実態に応じて、多岐にわたる体験活動の場を設定してきたことにより、感動や発見が生まれるなど、子どもたちの心を大いに刺激することができた。今後も児童生徒の希望を考慮し、講座等の内容の充実を図りながら継続実施していきたい。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	内容、会場等の課題はあるだろうが、5歳児にも「ほんもの講座」を鑑賞する機会を検討してほしい。

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	不審者対策事業	担当課名	教育総務課
総合計画の施策名	子どもの教育の充実	担当班名	教育総務班
		電話番号（内線）	0187-84-4914(2405)

事業の目的	子どもたちを不審者から守り、安全な学校生活を送ることができるよう不審者対策事業を行う。			
事業の内容	児童生徒の登下校時に見守り活動を行っている隊員へステッカーを配布する。 不審者情報等を配信する安全・安心メール連絡システムを運営する。			
事業の対象	児童生徒・町民			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	425 千円	416 千円	487 千円

事業の効果等	防犯意識の高揚を促したことで不審者への抑止力が働き、児童生徒の安全が確保できた。また、安全・安心メール連絡システムを町内の園・小中学校すべてに導入しており、緊急時の連絡手段として有効に活用されている。
実績・成果等（数値）	子ども安全集会 →3月22日開催　会員63名参加。 安全・安心メール連絡システム →全こども園、小学校、中学校保護者の登録。

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	安全・安心メール連絡システムを導入していることで、より迅速で正確な情報を保護者及び関係者に伝えることができている。また、このシステムと従来の見守り活動との連携により、町全体の防犯意識が高まることが期待できる。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	友好都市等との学校間交流推進事業	担当課名	教育推進課
総合計画の施策名	子どもの教育の充実	担当班名	教育指導班
		電話番号(内線)	0187-84-1112(2304)

事業の目的	・農村部と都市部の交流を通じ、児童の豊かな人間性を育む。 ・授業への参加や地域の方々とのふれあいを通して、それぞれの学校や地域のよさ、違い、課題などをつかむ。			
事業の内容	・仙南小学校と文京区立千駄木小学校の交流 ・千畑小学校と港区立御田小学校の交流			
事業の対象	・仙南小学校5～6年生、千駄木小学校全校児童 ・千畑小学校4～6年生、御田小学校4～6年生			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	300 千円	600 千円	1,023 千円

事業の効果等	美郷町や自校の紹介を通して地元のよさに気づき、学校や地域に対する考え方やまわりの人たちとの接し方を見つめ直すきっかけとすることができた。
実績・成果等(数値)	・仙南小学校は、昨年度から学校の様子や学習の成果を伝え合うなど交流を重ね、15名の児童による千駄木小学校への訪問が実現できた。 ・千畑小学校から御田小学校へ10名、御田小学校から千畑小学校へ33名が訪問した。

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	子どもたちは学校間交流を通して、美郷町と他の地域との違いや、それぞれのよさに気づき、児童のものの見方や考え方が深まった。内容の充実を図りながら継続実施していきたい。今後は、六郷小学校と大田区六郷地区小学校との交流開始を目指し、事業をさらに推進したい。		
事業の方向性	■ さらに重点化する	□ 見直しのうえ継続する	□ 事業の縮小を検討する
	□ 休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	家庭教育事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	社会教育班
		電話番号（内線）	0187-84-4915(4103)

事業の目的	心豊かな子どもを育てるために家庭教育の重要性について啓蒙を図る。			
事業の内容	幼児期家庭教育講座、就学時健診子育て講座、親力アップ講演会の開催。			
事業の対象	幼児期の子を持つ保護者、就学児童の保護者、地域住民			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金　額	373　千円	310　千円	373　千円

事業の効果等	幼児期家庭教育講座では、絵本の読み聞かせを通じて親子のふれあいの大切さについて学んだ。就学時健診子育て講座では、親子のコミュニケーションの大切さを確認した。親力アップ講演会では、しつけ、思春期の関わり方、虐待に関することなど、心理学に基づいた子どもとの関わりについて学んだ。
実績・成果等（数値）	幼児期家庭教育講座：なかよし園　園児121名・保護者121名 わくわく園　園児129名、保護者140名 すこやか園　園児131名、保護者200名 就学時検診子育て講座：千畑小健診時　48名、六郷小健診時　37名、 仙南小健診時　45名 親力アップ講演会：99名

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	保護者を対象にした家庭教育講座等は、園・学校、PTAと連携して行うことにより大きな事業効果が認められた。親力アップ講演会については、PTAほか関係団体と連携したことで、参加者が大幅に増加した。平成28年度も、早期に連携を取り付け、PRや協力体制を整えたい。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	親力アップ講演会はPTAとの連携事業だったが、充実した内容だったので、こども園の保護者へも声かけをして対象者を拡大してほしい。

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	青少年教育事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	社会教育班
		電話番号（内線）	0187-84-4915(4103)

事業の目的	子供たちに様々な体験の場や学習を提供し、自ら考え行動する「生きる力」を育む。また、地域の方々を学校に派遣し、学校の活動を支援する。			
事業の内容	わくわくスクール、コズミックカレッジ、学校支援地域本部事業、思春期の心を育てる講座の実施、開催			
事業の対象	地域住民及び町内の小中学生			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	593 千円	588 千円	730 千円

事業の効果等	わくわくスクール(夏休み・冬休み)は、子どもたちの創造性、協調性を育む場となった。また、JAXAとの連携事業で開催したコズミックカレッジでは、宇宙について学び、水ロケットの作成・発射実験を通して、未知の世界への想像を膨らませることができた。また、参加児童に役割を分担したことで、リーダーの育成にもつながった。学校支援では、地域の方々が学校活動に参加したことで地域と学校の連携強化につながった。思春期の心を育てる講座では、講師の被災体験や世界一周体験から、生きていることを実感すること、困難に挑戦することなどの大事さを学んだ。
実績・成果等（数値）	わくわくスクール参加者：延べ176名 コズミックカレッジ参加者：35名 思春期の心を育てる講座：中学生500名　職員45名　保護者300名

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	学校支援地域本部事業は、地域と学校の結びつきを維持するきっかけとなり、地域全体で子どもたちを育むための取り組みが進められた。わくわくスクール、コズミックカレッジでは、体験活動や学習を通じて、子どもたちの健やかな成長が図られた。思春期の心を育てる講座は、生きることの尊さや将来を考えるきっかけとなった。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	新しい取り組みや充実した内容により、創造性、協調性を育む学びの場として十分に効果があったと考えられるので評価を上位に変更する。

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	成人教育事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	社会教育班
		電話番号(内線)	0187-84-4915(4104)

事業の目的	町民の余暇活動の充実を図り、いきいきと活力にあふれる地域社会を創るための学習講座を開催する。			
事業の内容	生涯学習講座の開催			
事業の対象	町民			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	832 千円	642 千円	653 千円

事業の効果等	5講座(新規1・継続4)を開催した。特に新規の「おもてなし料理クッキング講座」は、旬の素材や地場産の食材を使った料理や寒天を使ったスイーツが大好評で、口コミにより参加者が増えていった。また、ひょうたん講座、わら細工講座は美郷フェスタの文化展に作品を出展し、多くの来場者から好評を得た。
実績・成果等(数値)	受講者数 おもてなし料理クッキング講座　20人・やさしい民謡講座A(長者の山)　21人 やさしい民謡講座B(仙北荷方節)15人・わら細工講座　15人 ひょうたん講座　9人

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	どの講座も教材や指導方法に工夫が見られる。そのため徐々に参加者も増え、順調に学習の幅が広がっている。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	生涯学習は必要性、有効性とも十分で学習の幅も広がっていることから評価を上位に変更する。今後は学校への出前講座も検討してほしい。

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	高齢者教育事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	社会教育班
		電話番号(内線)	0187-84-4915(4103)

事業の目的	心身ともに元気で生きがいをもって暮らすため、楽しく仲間づくりができる学習や交流の場を提供する。			
事業の内容	美郷いきいき大学の開催(年6回)			
事業の対象	60歳以上の町民			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	116 千円	73 千円	192 千円

事業の効果等	いきいき大学では年間通して6回中5回以上出席した方には「修了証」を授与しており、47名の方が該当した。平成27年度の学士取得者(20単位以上)は8名、修士取得者(30単位以上)は5人、博士は6人が誕生した。学びを通して、健康で豊かな高齢期を送るための一助となった。
実績・成果等(数値)	平成27年度開催　6回　述べ受講者数　486名　実受講者数　139名 修了者　47名　学士取得　8名　修士取得　5名　博士取得　6名

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	学習や交流の中から生きがいを発見できるような参加型の定期講座を、毎年違ったメニューで開催している。継続受講が多く、生きがいづくりに貢献している。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	芸術鑑賞事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	社会教育班
		電話番号(内線)	0187-84-4915(4103)

事業の目的	レベルの高い芸術・文化に触れる機会を提供し、芸術文化の振興を図る。			
事業の内容	自衛隊音楽隊コンサート			
事業の対象	町民			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	495 千円	528 千円	994 千円

事業の効果等	コンサートでは、収容400席のホールがほぼ満席になった。地域住民にレベルの高い芸術文化にふれる機会を提供することにより、町民の芸術に対する意識の高揚につながった。
実績・成果等(数値)	自衛隊コンサート　入場者数412名　　満足度99.3%

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	自衛隊コンサート後のアンケート結果では、99.3%の方から満足との回答を得た。コンサートは定着してきており、住民の期待も高いと考えられ、事業の目的を達している。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	参加者も多く満足度も非常に高い。レベルの高い芸術に触れる貴重な事業であり、住民の期待も大きいことから評価を上位に変更する。

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	芸術文化活動事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	歴史文化財班
		電話番号（内線）	0187-84-4040(3408)

事業の目的	住民の豊かな心を養い、芸術・文化に触れる機会を創出する。			
事業の内容	学友館特別展を開催することで優れた芸術・文化に触れる機会を提供し、個々の個性と想像力を育む。			
事業の対象	町内小中高生、地域住民ほか			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	1,818 千円	3,473 千円	6,024 千円

事業の効果等	住民の芸術文化意識醸成の向上が図られた。
実績・成果等（数値）	特別展　広重の「東海道五拾三次」と風景画の名品　6/21～7/20　1,974人 県展第13回仙北地域展　1/23～3/6　583人

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	郷土出身者の優れた芸術作品を鑑賞できる場の提供ができた。 歌川広重展では、本物の浮世絵に触れることで日本文化や伝統技術への認識が深まった。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	芸術文化団体支援事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	社会教育班
		電話番号(内線)	0187-84-4915(4103)

事業の目的	芸術文化協会やかけ唄保存会など、芸術文化活動団体の活動を支援する。			
事業の内容	芸術文化協会、かけ唄保存会の事業に対して補助を行う。			
事業の対象	芸術文化協会　かけ唄保存会			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金　額	472　千円	372　千円	372　千円

事業の効果等	伝統的な芸術文化の保護や、芸術文化団体の活動の活発化が図られた。
実績・成果等（数値）	芸術文化協会補助金　300千円　　かけ唄保存会補助金　72千円

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	助成団体における活動の活発化と会員相互の交流が図られた。芸文協への支援により、町民の芸術文化への関心が高まった。一方で、加入団体は減少傾向にあり、また会員の高齢化も進んでいることから、会の更なる活性を図るため新規加入の増加を図る手立て等について検討するよう団体に働きかけていく。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	学習成果発表事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	社会教育班
		電話番号(内線)	0187-84-4915(4104)

事業の目的	学習成果を発表する場を設けることで、学習意欲を喚起する。			
事業の内容	美郷フェスタ文化展、新春書初め大会、新春囲碁・将棋大会の開催			
事業の対象	町の生涯学習講座、サークル団体、町民			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	1,056 千円	109 千円	139 千円

事業の効果等	学習成果発表の場を確保することによって、学習者自身の学習意欲の向上が図られた。
実績・成果等(数値)	美郷フェスタ文化展:出展団体31団体235人・個人出展 25人 新春書初め大会:参加者34名(小学生19人、中学生2人、高校生3人、一般10人) 新春囲碁・将棋大会:参加者21名

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	■ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	■ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	■ おおむね達成できている	☐ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	展示や大会の開催により、受講者等の学習意欲が向上し、講座やサークル活動が活発化した。		
事業の方向性	■ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	伝統行事等伝承事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	歴史文化財班
		電話番号(内線)	0187-84-4040(3402)

事業の目的	伝統行事を通じて地域のコミュニティ活動の活性化を図る。			
事業の内容	六郷の七夕まつり(舟ッコ流し)の開催 六郷カマクラ保存会への補助			
事業の対象	六郷地区各町内会、六郷カマクラ保存会			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	1,264 千円	1,268 千円	1,446 千円

事業の効果等	伝統行事が伝承されることで、地域の一体感が醸成される。
実績・成果等(数値)	竹うちで、統一された打ち手用半纏を作成したことにより南北各軍の一体感が強まった。

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	舟ッコ流しやカマクラ行事などの伝統的な行事を継続することで、伝統文化に対する理解が世代を超えて深まり 、郷土愛や地域の一体感につながっている。		
事業の方向性	■ さらに重点化する	□ 見直しのうえ継続する	□ 事業の縮小を検討する
	□ 休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	成人式事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	社会教育班
		電話番号(内線)	0187-84-4915(4103)

事業の目的	新成人の門出を祝福するとともに、新成人の自覚と誇りを喚起し、社会参加意識の高揚を図る。			
事業の内容	成人式実行委員会の開催(成人者の成人式企画運営への参画) 成人式の開催(式典、記念映像の放映、ジャズ演奏)			
事業の対象	町内3中学校卒業生及び美郷町に在住する平成6年4月2日～平成7年4月1日生まれの者			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	586 千円	545 千円	633 千円

事業の効果等	成人者を祝福するとともに、実行委員会が主体となって企画運営に参加したことにより、今後を担うまちづくりリーダの育成と、今後の目標を見つけるきっかけづくりとなった。また、参加者が成人を迎えたことに対する意識の再確認等につながった。
実績・成果等(数値)	実行委員(3回実施):委員18名、当日参加者:160名(81.2%)

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	成人式は、成人までを振り返り、新成人として自覚する貴重な機会となった。実行委員は、同世代のリーダーとして成人式の企画・運営に携わったことで、今後、地域等で中心的な役割を担っていくことが期待される。次年度以降は、前年度の成人者からのメッセージ等も含め、前後の繋がりができるよう考えたい。		
事業の方向性	■ さらに重点化する	□ 見直しのうえ継続する	□ 事業の縮小を検討する
	□ 休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	学習サークル支援事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	社会教育班
		電話番号（内線）	0187-84-4915(4103)

事業の目的	生涯学習団体の学習活動を支援し、学習の活性化を図る。			
事業の内容	町外研修を実施する際のバス借上げ料の一部助成			
事業の対象	生涯学習団体			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金　額	20　千円	10　千円	10　千円

事業の効果等	生涯学習団体同士の交流・情報交換が活発になり、学習意欲の向上が図られた。
実績・成果等（数値）	生涯学習団体が町外研修をする際のバス借上げ助成1件。

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	生涯学習団体の交流が深まるとともに、新たな発見や質の高いものへの取り組みを目指すよう意識が向上した。学習や研修によって培われた力が地域づくりに活かせるよう、今後ますます活性化を図りたい。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	ブックスタート事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	子どもの教育の充実	担当班名	歴史文化財班
		電話番号（内線）	0187-84-4040(3403)

事業の目的	乳児と保護者が絵本を介してふれあうきっかけを作り、行政や地域に支えられながら健やかに子育てできる環境を提供する。			
事業の内容	町内に居住する7ヵ月児、10ヵ月児の乳児と保護者に絵本を手渡し、家庭での読み聞かせを推進する。			
事業の対象	美郷町に住民登録している7ヵ月、10ヵ月の乳児とその保護者			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	443 千円	389 千円	439 千円

事業の効果等	絵本を通じて親子の絆を深め、子どもの豊かな心を育むとともに、子育て支援体制の周知が図られた。
実績・成果等（数値）	乳児122人に絵本を手渡した。

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	絵本を囲んで赤ちゃんと家族とがふれあう時間を創出し、子どもの心の健全育成と読書推進に寄与した。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	時期、選書とも適切だと思われる。長く継続してほしい事業である。活用の仕方や、感想を聞く機会があればさらに充実すると思う。

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	町立図書館機能向上事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	歴史文化財班
		電話番号(内線)	0187-84-4040(3403)

事業の目的	活字離れや読書離れが問題となっていることから、読書への興味を喚起し、「読む・考える・表現する」ための習慣づけの一助とする。			
事業の内容	美郷町読書フェスタを開催し、関連事業として心に残った一冊の紹介コンクールを実施する。図書館用備品の更新により利用環境の向上を図る。			
事業の対象	美郷町内の小中学生、高校生、美郷町民			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	- 千円	951 千円	530 千円

事業の効果等	幅広い年代層の参加、来館があり、読書への興味が喚起された。
実績・成果等(数値)	美郷町読書フェスタの開催　参加者250名 一冊の本紹介コンクール応募総数　257編

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	読書フェスタを初めて開催し、住民の読書意識向上の啓発に寄与した。関連事業を読み聞かせ団体と協働で行うことや、図書館用備品の更新を行い、読書に親しみやすい環境づくりに努めている。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	文化財保護事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の推進	担当班名	歴史文化財班
		電話番号（内線）	0187-84-4040（3408）

事業の目的	町内の史跡等重要なものについて、その保存及び活用のため必要な措置を講じ、郷土の歴史や文化について学ぶ場所を提供する。			
事業の内容	町内の史跡等の維持管理、文化財等保存修復処理、文化財保護に関する啓発			
事業の対象	指定文化財、文化財保護審議会、文化財保護協会			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	4,327 千円	3,274 千円	3,537 千円

事業の効果等	史跡や歴史資料の修復を行うことで、町の歴史について学習できる貴重な文化財を後世に継承することができた。文化財保護団体に補助金を交付し、文化財保護の啓発が図られた。
実績・成果等（数値）	文化財保護審議会開催（2回）、文化財等保存修復処理（5件）、 町内の指定文化財の管理

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	文化財を維持管理・保存し次世代に伝えていくことで、郷土の歴史や文化に対する理解が深められている。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	ニュースポーツ教室等事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	スポーツ振興班
		電話番号(内線)	0187-84-4916(4301)

事業の目的	生涯にわたり誰でも気軽に親しむことができるニュースポーツ教室を開催するなど、スポーツ環境を提供することによって、健康的なライフスタイルの充実と、心身の健康増進につながる。			
事業の内容	ニュースポーツ教室を開催する。(美郷町総合型スポーツクラブ委託事業)			
事業の対象	全町民			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	790 千円	790 千円	790 千円

事業の効果等	参加者の健康増進への認識が増し、仲間づくりや交流も行われ、生活習慣としてスポーツを行うことが楽しみとなっている。
実績・成果等(数値)	・ニュースポーツ教室(ラージボール卓球・ユニカール・ミニテニス他)23回 341名 ・屋外ウォーキング 7月～11月 町内6回 町外4回 延べ72名 ・屋内ウォーキング教室(ノルデックウォーキング他)12月～3月 15回 174名 ・水泳教室(小学生3年～6年生)4回 174名

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	ニュースポーツ教室、屋内ウオーキング教室は、定着してきているため、今後、参加者の増加が見込まれる。 屋外ウォーキングは、参加者が増加するものの魅力あるウォーキングコース選定が課題である。水泳教室は、参加人数が定員までは少し満たないが横ばい傾向にある。		
事業の方向性	■ さらに重点化する	□ 見直しのうえ継続する	□ 事業の縮小を検討する
	□ 休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	冬期スポーツ教室事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	スポーツ振興班
		電話番号(内線)	0187-84-4916(4302)

事業の目的	冬場における運動不足解消と健康増進を図るため、スキー技術等の普及と推進を図る。			
事業の内容	スキー教室を開催する。			
事業の対象	小学校低学年(1年生～3年生)			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	103 千円	139 千円	135 千円

事業の効果等	冬期スポーツの普及として目的は達成されている。
実績・成果等(数値)	後三年スキー場　1/9～1/11(3日間)　76名(延べ220名)

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	毎年多数の参加希望があり好評を得ている。 町スキー連盟やボランティアの協力で、子ども達が冬期スポーツに親しむきっかけ作りとなる事業を展開できている。冬期間の運動不足の解消にも繋がり、健康増進やコミュニティの形成にも役立っている。スキー指導者の高齢化等から指導員の減少が懸念されるが、引き続き継続すべきと思われる。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	少年スポーツ振興事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	スポーツ振興班
		電話番号(内線)	0187-84-4916(4301)

事業の目的	スポーツ少年団等の活動を通じて交流や融和が図られるとともに、心身の向上や社会性を育て、青少年の健全育成を涵養する。			
事業の内容	スポーツ少年団に対する育成費用と上位大会進出の団及び団員(選抜)等に対し、派遣費用の経費を助成する。			
事業の対象	スポーツ少年団及び団員			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	2,207 千円	2,295 千円	2,680 千円

事業の効果等	スポーツ少年団活動の推進と団員の健全育成が図られた。
実績・成果等(数値)	スポーツ少年団　24団体　472名が団員登録 選手派遣費補助　6団体　10大会へ補助(野球、ミニバス、バレー、空手、相撲)

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	
判定説明及び考察	スポーツ少年団の活動は母集団の協力体制の充実により活発に行われ、活躍も目覚ましく各種大会で好成績を収めている。スポーツを楽しむという概念をもって引き続き青少年の健全育成を推進する。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	町民スポーツ大会事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	スポーツ振興班
		電話番号（内線）	0187-84-4916(4302)

事業の目的	町民へ多くのスポーツ種目との出会いの機会を提供することで、交流機会を創出して、コミュニティの醸成と運動意識の向上を図る。			
事業の内容	チャレンジ健康マラソン、中学校新人駅伝大会の開催に加え、14種目の町民大会を体育協会に委託し開催。			
事業の対象	全町民、大仙仙北美郷の中学生			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	2,583 千円	2,567 千円	2,793 千円

事業の効果等	健康づくりのために町民にスポーツを楽しむ機会の創出が図られた。	
実績・成果等（数値）	チャレンジ健康マラソン	9/5（土）開催　6kmコース、3kmコース　合計59名参加
	中学校新人駅伝大会	10/14（水）開催　男子、女子共に16校　18チームが参加
	町民スポーツ大会	バスケット・バレー・卓球・山岳・グラウンドゴルフ・マレットゴルフ・バドミントン・テニス・サッカー・ゲートボール・相撲・パークゴルフ・スキー・野球の各協会が町民大会を開催した。2，368人参加
		ユニカール大会（3/5　21チーム　65名）

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	
判定説明及び考察	町民体育大会は、地域の連帯感と世代間交流が図られている。しかし、主催協会によっては開催実績に差が見受けられることや、全年代層への運動機会の提供には至っていないようだ。 チャレンジ健康マラソンは、参加者は横ばいだが趣旨が定着してきているため、継続が妥当と判断される。 駅伝大会は毎年の開催で定着しているため、継続する必要がある。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	部局評価のとおり

平成27年度

事業評価シート

事務事業名	スポーツ普及活動支援事業	担当課名	生涯学習課
総合計画の施策名	生涯学習の充実	担当班名	スポーツ振興班
		電話番号（内線）	0187-84-4916(4302)

事業の目的	スポーツの普及と定着化を進めるために、活動の核となる体育協会等を育成する。			
事業の内容	町体育協会の運営、育成、バス遠征費を助成する。			
事業の対象	町体育協会、各スポーツ活動団体			
事業費	年度・区分	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
	金額	832 千円	813 千円	853 千円

事業の効果等	生涯スポーツ振興のために重要な役割を担っている。 しかし、助成している各単体協によっては、その組織力に差が見受けられる。引き続き底辺拡大に努めたい。
実績・成果等（数値）	体育協会を通して、19の単体協に育成費の助成を行った。

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できていない

内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
判定説明及び考察	種目によっては参加者の固定化と減少の傾向も見受けられ、生涯スポーツとして活動を続けていくためには、活動基盤を維持できる対策が必要であり、町体育協会加盟団体を中心に支援を継続する必要がある。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する	

外部評価	B	評価委員意見	部局評価のとおり